

資料 の し ら せ

くにたち公民館だより抜粋 82 ～ 87

新・チラシ 88 ～ 89

〈特集：くにたち公民館と若者たち〉

世界が、ちょっと広がるところ。

コーヒーハウスへようこそ！

新しい年のはじまりに公民館で活動する若者4人が綴る、
出会いと楽しさのつながり事始め——。

喫茶わいがや
＋
しょうがいしゃ青年教室
＝
コーヒーハウス



第 767 号

2024年 1 月 5 日

(令和 6 年)

「くにたち公民館だより」

ホームページ▶



公民館に入ると、時々ふわりと
コーヒーの香りが漂ってきます。
市民交流ロビーの横にある喫茶わ
いがや、その奥にある「青年室」。
見渡すと、ハンドドリップコーヒ
ーを淹れるわいがやのスタッフ。
青年室には、コーヒーを片手にお
喋りをするしょうがいのあるメン
バー、傍らにはパソコンに向かい
課題にいそしむ大学生……。40年
ほど前、しょうがいのある・なし
をこえて若者たちが出会い、一緒
に楽しみ、学び合おうと始まった
「コーヒーハウス」は、いまも若
者たちのわいわいがやが溢れ
ています。

コーヒーハウスの活動は、大き
くわけて2つ、市民団体が運営す
る「喫茶わいがや」と公民館の事
業「しょうがいしゃ青年教室」。
しょうがいのあるメンバーとボラン
ティアのスタッフがスポーツやク



丁寧に開店準備を……(喫茶わいがや)

ラフト、みんなで企画し実行する
「YW」などのコースに分かれ
て活動しています。全体で行う
夏企画(BBQなど)やクリスマス
会、合宿といった年間行事も。
今回の特集では、スタッフにコ
ーヒーハウスへの思いを綴っても
らいました。職員と一緒に編集を
担当したのも、大学院生のスタッ
フです！ コーヒーハウスの魅力
の一端を感じ、そして、仲間にな
っていただけばと思います。

発行 迎春

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

ほくたちの溜まり場

萩原 涼平

僕がしょうがいしゃ青年教室
(※以下、しょう青)と関わり始
めたのは中学生の頃でした。中学
校から国立市に転校してきたので、
地域のつながりなんて全くありま
せんでした。友達に誘われて公民
館の中高生の学習支援「LABO
☆くにスタ」に行くようになりました。
そこで大学生、地域の大人、
職員さんなど、様々な人と関わり
をもち、しょう青のスポーツ講座
に誘われました。この講座では毎
月1回みんなで決めたスポーツを
します。バスケットボール、ド
ロケイと運動に
関わるものならなんでもやります。
元々運動するのは好きなので楽し
みな反面、人見知りなので当然最
初は「怖い人がいないといいな」
とか「他の人たちと仲良くなれる
のかな？」などマイナスなことば
っかり考えていました。しかし、
行ってみたらめちゃくちゃ話しか
けてくれてすぐに仲良くなれまし
た。第一印象はとにかくウェルカ
ムという感じで、すごくあったか
い場所でした。

運動をガチガチにやるというよ
りは、みんなで楽しくやるところ
がとても自分に合っていると感じ



昭和記念公園で青春？(スポーツ)

※中央下が萩原さん

ています。また、知らないスポー
ツに出会えるところも楽しいこと
ろの1つです。実際に体を動かし
てみると、これが結構おもしろい
んですね。こういった発見は一
人ではなかなか出来るものではな
いので、楽しくやらせてもらって
います。そして、1番の魅力は、
年齢やしょうがいなど様々な壁を
越えて友達みたいに関われること
ろです。上とか下とか、そんな硬
い関係はありません！ そういつ
たところに、スポーツ講座のみな
らず、しょう青の魅力が詰まっ
ていると思います。

しょう青の活動拠点は「喫茶わ
いがや」の隣の青年室です。特に
理由もなく、ふらっと寄って時間
を過ごせる良い意味でのみんなの
溜まり場になっています。いわば
秘密基地のような場所です。あな
たも心休まる居場所をぜひし
ょう青に作りませんか？ 青年室で
いつでもお待ちしています！

来るもの拒まず——

コーヒーハウスに浸る

高田 佳汰



B B Q終わりに追いかけっこ(※右端が高田さん)

自分がコーヒーハウスに関わるようになったのは大学2年生の10月です。それ以前は、公民館で行われている学習支援の「LABO ☆くにスタ」に参加していました。そこで友達から、「ソフトボール大会(毎年10月のコーヒーハウスの定期イベント)があるから来ないか」と誘われ、ノリで参加を決めました。当日は、メンバーさんスタッフさん共に、知らない人ばかりで最初は緊張しました。けれども、みんなが気さくに話しかけてくれたおかげで、思いつきり楽しめました。また、印象に残ったことといえば、大会後のスタッフ打ち上げです。こんな経験は初めてで、大切な思い出として記憶

に刻まれています。年の近い学生と話したり、酔っ払った大人と話したりと、全てが新鮮で最高でした。なにより、「タカダくんが来てくれてよかった」とか、「また参加してね」とか、嬉しいお言葉をいただき、とても温かい空間だなあ、また参加したいな!と強く思いました。そこから、僕はコーヒーハウスに浸かっていくようになりました。特に印象に残った活動は、Y Y Wで行ったキウイ狩りや、喫茶わいがや(公民館内の喫茶店)の市民祭出店、夏企画で行ったB B Qです。キウイ狩りでは、国立市内のキウイ農園に行き、いろんな種類のキウイを採りました。「狩り」も「味」も最高でした。市民祭の出店は、前日の買い出しや当日の接客など、高校の頃に某ウィルスの影響でできなかった文化祭の悔しさを挽回できました。また、国立市の盛り上がりも体感しました。

B B Qは、立川の某ビーチに行き、買い出しや火起こしなど協力しながら楽しむ感じでした。肉を喰らい、砂場で遊び、仲間との絆が深まったと思います。このように、コーヒーハウスは、サークル的な活動をした人々や脈を広げたい人にうってつけの場所だと自分は感じています。ここは、とてもあたたかい空間で、「来るもの拒まず」な場所です!是非僕たちとこの活動を盛り上げませんか?!

今これを読んでいる若者ツツ! 大人ツツツ!

コーヒーハウスの活動一緒に盛り上げようぜツツツ!

一人ひとりが共に築く
場所と心の拠り所
森本 彩里紗

コーヒーハウスに関わり始めて約2年。大学の実習をきつかけにコーヒーハウスに足を踏み入れたが、コロナ禍における活動の制限がある中でも、多くの話し合いと工夫を重ね、一人ひとりが「居場所」を保ち続けようとする姿に非常に心を動かされた。私が主に参加しているのは、料理講座である。いつも料理講座に向かう道中は、今回はどんな講座になるのかな……、と楽しみ半分、不安半分でそわそわしながら向かっている。それでもいざ講座が始まると、私の不安はスッと軽くなる。それは、講座は一人ではなく、みんなで創っているのだと実感できるからだ。毎月様々なメニューを、みんな

で一緒に作って一緒に食べる。文字にすると簡単だが、実際は結構大変だ。お米を研いだり、野菜を切ったり、材料を炒めたり……。安全面に気を付けてみんなで役割分担をして作業を進めていく。しかし、その「みんなで」作業を共にすることは、とてもとても楽しい。講座において、私は正解を追求しているわけではなく、場を介して活動することの楽しさが生み出されたいいと思っている。そのため、料理も、綺麗に完成することが目的ではなく、その作る過程が大事だと感じる。野菜がでこぼこだっていいし、ちよつと味が薄くたって、見栄えが悪くても全然いい。一緒に料理をして食べる中で、スタッフやメンバーとの会話や関わりを通じて新たな一面や思いに触れ、試行錯誤しながらも笑顔で活動できる雰囲気がとても好きだし、大切にしたい。コーヒーハウスには、たくさんのメンバー・スタッフがいて、それぞれの性格ももちろん異なる。そして、活動ひとつを通してすぐに仲良くなれたり、分かり合えたりするわけではない。一緒に活動し場を共にすることで、時間をかけながらも少しずつゆつくりとお互いについて知っていく、関わり合う存在になっていく。静かではあるが、途切れにくい関わりがある。この場所は、私の心の拠り所だ。



森本さん。丁寧に行程を確認(料理)

失恋の傷をも癒す
コーヒーハウス
館 真理恵

本題に入ろうと思う。

ある日、Y Y Wのスタッフとして公民館を訪れると、喫茶わいがやのカウンターでうなだれている男を発見した。Dくんである。私を見るやいなや「館さん！聴いてくださいよぉ！」と今にも泣きそうな顔でこちらを見ている。講座終わりに打ち上げも兼ねてみんなで話を聴くと、彼は失恋していた。しかも「相手の裏切りを伴う形で」。私も数年前に同じ経験をしていたがために、彼の気持ちは痛ほど分かった。彼の話を聴き、いくつかの助言を終えると「今日は本当に助けられました！」と幾分か明るくなった彼の顔があった。いや、救われたのはむしろ私の方でもある。過去の自分の苦しい思いが昇華されて、なんだか報われた気分だった。自分の経験が他人を助けたなら、これほど嬉しいことはない。

さて、冒頭で言ったしう青の「それ以上の意味合い」の1つが、「第三の居場所」であると思う。

私の失恋当時は、相手がサークル仲間だったためサークルの行事にも行けなくなったが、そこに丁度コーヒーハウスの合宿があり救われた、という経験もある。そして、家でも学校でも職場でもない居場所だからこそ、程よい距離感で、

純粹に人生の先輩・後輩として話せるのだと思う。何より普段の活動を通して、多様性を受け入れるだけの素地ができています。

ぜひ、人生の先輩や後輩とお話しにきませんか？失恋相談は館またはDくんまで♡



水族館へのバスハイクでイルカと
(※真ん中が館さん)

編集に関わって

菊地 宏亮
こうすけ ひろあき

皆さんはお気づきですか？公民館に行きたくなっている自分に。

私は、この空間をととても愛おしく思っている。活動の中で純粹に笑い、他人の近況を聞き刺激をもらう。時々、事件も起こる。だが、それも含めて愛おしい。

コーヒーハウスには素敵な知り合いが沢山いる。それを皆さんには知ってほしい。そして、少しでも興味をもってもらえたらこれほどうれしいことはない。青年室でお待ちしておりますね。

コーヒーハウスの仲間になりませんか？

～ボランティアスタッフ募集中～

遊ぶ！つながる！世界が広がる！

しょうがいしゃ青年教室

いろんな「遊び」と「学び」にいっしょにチャレンジ。ボランティア未経験でも大丈夫。一緒に楽しめればOK。

内容：①スポーツ②料理③クラフト④Y Y W
(自由企画) ⑤季節の行事などの企画・運営

日時：基本的に土日開催。1回2時間程度。

“自分たちの喫茶店”を一緒につくろう——。

喫茶わいがや

コーヒーを淹れ、好きな音楽を流し、時々、お客さんとおしゃべり。ゆるやかにつながりながら、みんなで作る喫茶スペース。

内容：喫茶スペースの運営(しょうがいのある方と一緒に、ハンドドリップコーヒーを淹れたり、簡単なメニュー(トーストセットなど)をつくったりします。)

日時：火～日曜の11:30～19:00のうち、参加できる好きな時間。1回1時間からOK

対象：高校生から30代くらいまで

申込先：ホームページより申込



〈特集：公民館講座紹介と参加者の声〉

身体表現講座

からだであそぼう
—あそぶ・ほぐす・つながる—



ストレッチでのびのび

「風船になって、ゆっくりく息を吐き出しましょう。体中の悪い空気を外に出して……そうそう、今度は好きなものや自分が心地よいと思うものをイメージしながら息を吸って……」

公民館の地下ホールに、ファシリテーターの大川あじさいさんの元氣な声が響きます。月1回、第四土曜日は「身体表現講座」から「からだであそぼう」の時間。参加しているのは、小さなお子さんとお母さん、シニア世代の方、しょうが

いのある方……。年齢も、背景も、みんなバラバラな人たちが同じ時間と空間を共有しています。

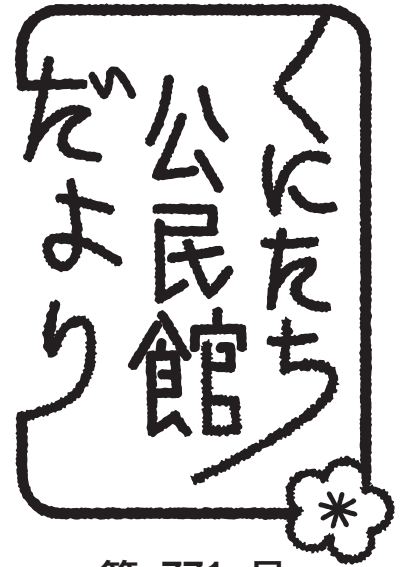
2時間の講座の前半は、からだをゆるめる時間。風船の呼吸や、足つぼのマッサージ、参加者同士でストレッチをしあったり、ヨガのポーズを試してみたり。からだがあそびたい、後半はいよいよ表現の時間。あじさいさんが考えてくるお題は毎回実にバラエティーに富んでいます。例えば、かわいらしいとかわいい。実際に豆腐やレンガをさわって、「さあ、レンガの気持ちになってみて！」「じゃあ今度は豆腐の動き！」イメージを膨らませながら、カチコチになったりフニャフニャに動いてみたりします。他にも、音で動く。自然の音やクラシック音楽、はたまた落語を聞いて、その音からだをなまらせていく……。時に笑い、時に戸惑う参加者たちに、あじ

さいさんは笑顔で語りかけます。「正解なんてないから動いてみて！」

そう、ここには「こうあるべき」という答えはありません。自分のからだの動き、同じ空間に居る人の動き、その気配や空気を感じ、ある時は触れ合って一緒に、ある時は離れてバラバラに。言葉でなくても、からだで互いのコミュニケーションが紡がれていきます。次ページでは、そんな身体表現講座の多様な参加者の声をお届けします。



互いの動きを感じながら作品を創っていきます。



第 771 号

2024年 5 月 5 日

(令和 6 年)

「くにたち公民館だより」

ホームページ▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

参加者募集中(身体表現ワークショップ)

からだであそぼう

—のびのびとうごくワークショップ—

のびのびとからだを動かして、自分を表現してみませんか？ ころもからだも柔らかくして自分の可能性を開放し、仲間と楽しく作品を創りましょう。



ファシリテーター 大川 あじさい

と き 全8回。5月25日、6月22日、7月27日、9月28日、10月26日、11月30日、12月14日、15日（発表会）すべて（土）昼2時～4時〈予定〉

ところ 公民館 地下ホール（場合により講座室）

対 象 身体を使って表現すること、しょうがいがある人と一緒に舞台をつくることに関心がある方。年齢・国籍・性別・しょうがいの有無は問いません。※しょうがいのある方は、後日面談の場合あり。保護者の方や、ヘルパーさんの参加も歓迎！

定 員 12名（申込先着順）

申込先 5月21日（火）夕5時までに電話で公民館へ

身体表現ってなんだろう??

大野 圭介

私たち親子が身体表現講座に参加して、2年となりました。きっかけとなったのは、息子の特別支援学校卒業にともない、それまで土曜日を過ごしていたデイサービスも卒業となったことです。新たな過ごし方と居場所を探し求めているところ公民館の方からお話を伺い、参加してみることにしました。

考えてみると知的しょうがいしゃである息子が今までどうやって外の世界に接し、環境になじんできたのかという過程は見たことがなかったので、親子での講座参加は、彼の学習や思考など成長過程の一部を間近で見る貴重な時間となりました。私自身、日常生活では、正解があるものに対して取り組む機会の方が多いので、身体表現という正解がないことに取り組むというのは、なかなか難題ではありますが、自分の生きている世界が意外に狭い世界であることも実感しました。

年間の活動を締めくくる発表会では、参加者全体で作り上げる部分が多く、ことばで身体表現を考える大人と、体が先に動き出す子どもたちの一体感が不思議と形になるもので、これでいいのだらうなという充足感が一年間の学びとなりました。そしてまた、この講座で新たな一年を迎える予定です。



←それぞれが動く気配を
感じながら



→ダイナミックな表現も

クリスマス会 風、海、動物になって大きく
なったり小さくなったりする動きから……



みんなでゾンビダンスでフィニッシュ!

娘と私の余暇活動

トマト (ペンネーム)

「5月!ダンス!あじさいせんせい!ハリーさん!」と言って新年度の講座を楽しみに待っているのは、私の娘です。彼女は自閉症を持っています。

去年の春、娘が就労し余暇活動を探していたところ、『公民館だより』を見て参加を決めました。親も参加できるので私も一緒に楽しめて、からだを動かせる機会が持て良かったです。ストレッチやからだほぐしでは、毎日慌ただしく過ごしている時を忘れ、からだのこりかたまったところをほぐし、ゆっくり深呼吸してリフレッシュできました。娘も、自分のペースでのびのびと過ごしています。表現では、どう表したらいいか戸惑うところもありましたが、皆さんと一緒に生み出されていく面白さを感じました。

クリスマス会での舞台発表は森の中のシーンではじまり、一人ひとりが木になり、神秘的な雰囲気でした。私と娘は森の中にたたずむんで、その空間にずっと溶け込み、心地の良い時を過ごしていました。その後、地球の自然をテーマに、小さなお子さんから大人まで一体となって、風・海・動物など色々なものを表現して、迫力のあるステージになり、一緒にいて「すごいなあ」と感動しました。初めての体験でしたが、とても良い経験になりました。しょうがいしゃと健常者の壁がなく、一緒に活動できるこのような場があることをありがたく思います。

*担当職員のニックネーム。講座内ではニックネームで呼び合います。

身体表現の講座に参加して

大浦 順子

“身体表現”、聞いたことのない未知の言葉でしたが、公民館だよりの講座案内を見て興味を引かれました。私はシニア世代なので、他の参加者にご迷惑ではないかと参加に躊躇や不安な気持ちもありましたが結果的には杞憂でした。参加者は年齢も性別も様々でした。

1回2時間で、前半はストレッチなど体ほぐしを行います。後半は音楽や様々な音を聞きながら体を動かします。この体を動かすということが、最初は、どうしたらよいかわからず全く動けませんでした。そのうち、少しずつ動いていました。ある時は落語を聞いて踊るプログラムがあり、そんなの無理、無理と思いながらも全員で踊っていました。音を聴きながら、心が動き、手足を伸ばし、歩き、楽しく踊ることで、心や体がびっくりするほど解放されます。こんな心地よい世界があるのだと感動しました。

5月に始まり12月まで続く講座の締めくくり全員で作品を作り、公民館のクリスマス会で発表です。最近のヒット曲に乗って全員で踊りました。心も体もしなやかなあじさい先生のご指導はとても楽しい時間です。



←いろんなステップを楽しむ。
子どもたちは元気いっぱい!



→一人ひとりがつながり
ながら彫刻を表現

身体表現講座の魅力

大川 あじさい (講座ファシリテーター)

人はそれぞれ違います。
からだも一人一人違います。
みんなちがってみんないい。
身体表現講座では、考えもからだも全然違う人と初めて出会って、表現することと一緒にチャレンジします。
自分と違う考えやからだに出会って世界が広がるのです。
木になってみよう！
色を踊ってみよう！
正解のないことにみんなで一緒にとりくんでいると……あら不思議、違っているように見えていたのに、中身は同じだとわかります。年齢とか性別とかしょうがいがあるとかないとか、そういう区別は本当は無いんだ、ということに気づきます。
楽しみながら踊りながら、そんなことを実感できる。
それがこの講座の最大の魅力です。



楽しく動こう！(右側が大川あじさいさん)

国立市公民館

身体表現講座 あらまし

①からだほぐし

じぶんのからだをほぐします

②ストレッチ

のびします！

③なにもかんがえない時間

あたまからっぽ～

④表現

いろいろな表現を楽しみます！

遊ばせてね！

あじさい

月に一回土曜日PM2時～4時

12月にクリスマス会で作品発表！

講座は全8回！

ファシリテーターのプロフィール 大川 あじさい

多摩美術大学絵画科卒。
在学中は演劇部に所属し、卒業後も演劇やダンスなどにあける。
2004年、しょうがいのある方と舞台作品をつくる活動に参加 (Air～空～パフォーミングアーツ研究会@八王子)。
以来20年間、しょうがいのある方の身体表現の魅力にとりつかれ、現在に至る。絵画・ダンス・パフォーマンス等、ジャンルにとらわれない作品を制作・発表・模索を続けている。

あじさいさんにQ&A

Q. 講座のはじまったきっかけは？
A. 2010年頃、喫茶わいがやでコーヒーを淹れたり、クラフト講座をお手伝いしたりしていました。そこへ、当時しょうがいしゃ青年教室の担当をしていた職員さんが、「新しい講座をやりませんか？」と声をかけてくださったのです。しょうがいのある方との舞台作品制作の経験を生かしながら、地域の方々と一緒に楽しい講座ができるのではと思い、お引き受けしました。

Q. 講座はどんな風にやっている？
A. 図解で、毎回の講座のあらましを描いてみました。講座の最後には、しょうがいしゃ青年教室のクリスマス会に参加して作品の発表もします。

★活動に参加してみたい方は公民館までお問合せください。見学も歓迎！



ボランティアって言ったら楽しすぎるし、ただの遊びにしては奥が深すぎる…。
ここで色々な人に出会って、ちょっと世界が広がった。

公民館で一緒に活動する スタッフ 募集中



国立市公民館コーヒーハウス

きっと、どれか1つは好きになる。

喫茶わいがや

みんなでメニューを考えて、好きな音楽を流して…バイトでは味わえない“自分たちのお店”をつくっています。

スポーツ



ティータイム

活動の合間にはお茶をしながら、その場に居合わせた人とのおしゃべりに花が咲きます。時には人生の相談も？

スペシャルイベント

花火 旅行 BBQ
登山 クリスマス

料理



ボランティア？

しょうがいのある方と活動していますが、支援するというよりも、一緒に居場所をつくっている感じです。

クラフト



青年室

思いつきをみんなで試したり、のんびりしたり、勉強したり、いつでも自由に過ごせる秘密基地のような部屋。

気が向いたときに来ています。ボランティアとかしょうがいとか馴染みがなくて最初は緊張したけど、来るもの拒まずな温かい雰囲気です、思いっきり **楽しめました！**



タカダさん

月に1回、料理の日に来ています。得意かどうかではなく、みんなで一緒に作って**食べる**こと自体がとっても**楽しい**です。



ありさん

募集要項

しょうがいしゃ青年教室



喫茶わいがや



内容	レクリエーション活動（各コース月1回） 料理 スポーツ クラフト 自由企画 など	喫茶店の開店・運営
日時	主に土曜または日曜	火～日曜 11:30～19:00 のうち、参加できる好きな時間
活動時間	1回 2～3 時間程度	1回 1 時間～
サポート	交通費や食事代程度	1 時間数百円程度
募集対象	高校生～30 代くらいの方（ボランティア経験はなくても OK！）	
申込先	国立市公民館 ☎042-572-5141 または ここから！	



編集後記

始まりは社会教育実習中に参加した会議、その一環で加わった冊子の委員会でしたが、実習が終わった後もこうした形で関わらせていただいたことに感謝申し上げます。公民館に関わる人の思いや情熱を感じることができました。様々な人の“楽しい”や“嬉しい”のできるつながり。それを体験できたことを嬉しく思います。これを読んだあなたにコーヒーハウスのイメージが少しでも伝わることを願っています。(一木亜瑠都)

コーヒーハウスに参加するようになったのは、去年の6月頃なんですよ。だから、新参者です。あまりコーヒーハウスを知らなかったのも、今回の冊子編集は色々なことを学べる良い機会でした。まだまだコーヒーハウスの活動に参加する予定なので、よろしくお願いします！(保科瑛)

冊子を作るって、けっこう大変ですね。文章を書くって、やっぱり重いし。日記なんかは他人のはよく読むけど自分では続かない(笑)。でも、文章に残すって大事なことだと思うから、今回の冊子もみんなで仕上げられたんです。思ったこととか考えたことって、文字にして形に残さないと消えてなくなっちゃう。残しておけば、5年後10年後、ひょっとすると40年後の松井みたいなヤツ(キミのことだ！笑)が読むんじゃないかな。(実習生の松井)

たまたま初回に居合わせたらいつの間にか参加していた冊子の編集委員会。関わるなかで、みんなのコーヒーハウスを大切に思う気持ちが伝わってきて、それをいち早く感じることでできる編集委員になれてよかったと思いました。今回の企画ページは「もっと深いり」というタイトルにふさわしく、読むとコーヒーハウスにもっと深入りできる内容になったと思っているので、文字が多いですが、ぜひ読んでもらえたら嬉しいです。(緑川菜々実)

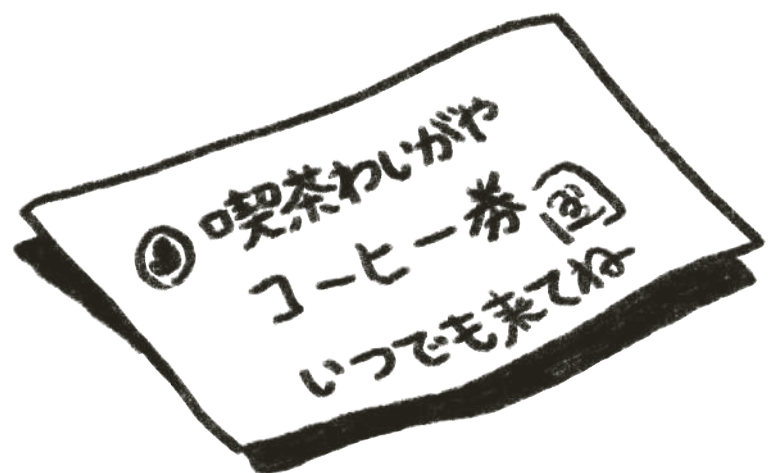
前号の編集にも関わりましたが、2年経つのはあっという間でした。色んな活動や出会いがあったな～と編集しながら感じました！改めてコーヒーハウスの皆さんに感謝いたします。(森本彩里紗)

途中3か月ほどのインターバルがあったことで、編集委員会の皆様にご迷惑をお掛けしたことを何よりお詫び申し上げますとともに、無事「2023年度～2024年版度：冊子コーヒーハウス」が完成したことを心より御礼申し上げます。(米川愛実)

コーヒーハウスに関わって6年。青年室やわいがやを訪れる度に、メンバーやスタッフ、職員の皆様が温かく迎えてくださいます。私にとって、コーヒーハウスは希望の光の差し込む場所でもあります。皆様との出会いに改めて感謝いたします。(鷲尾勇輝)

コーヒーハウス 74 号
(青年室活動 2023-2024 年度のまとめ)

編集 冊子コーヒーハウス編集委員
一木亜瑠都、保科瑛、松井遊太郎、緑川菜々実、森本彩里紗、
米川愛実、鷲尾勇輝
表裏紙デザイン 宗像 里奈
2025年 3 月発行
国立市公民館 青年室
〒186-0004 東京都国立市中 1-15-1



① 喫茶わいがや
コーヒー券 ②
いつでも来てね